

混迷を深め、閉塞感が漂う世界
絶望的で笑えない限界に陥った人間の状況を笑う名作
現れない救世主を待つ「ゴドー」を、札幌から世界へ

TAKADA KEITOKU

演劇実験室●万有引力

EN ATTENDANT GODOT by Samuel BECKETT



introduction

アイルランド出身の劇作家、サミュエル・ベケットが執筆したこの戯曲は、1953年の初演以来、世界中の演劇人に大きな影響を与えてきました。「ゴドー」は世界中で、勿論日本においても現代演劇の世界遺産的作品として知られ、上演が繰り返されています。「ゴドー」をヒントに創作された翻案・脚色・潤色も数限りなく、第二次世界大戦という人類最大の殺戮が行われた直後のヨーロッパで創作されたこの作品が、その後、世界各地の戦争や大災害が起こった場所や、劇場でも繰り返し上演されてきました。北海道の網走刑務所では串田和美さんの演出で緒形拳さんが出演した「ゴドー」が2000年に上演されています。「ゴドー」という救世主をひたすら待ち続けるこの滑稽な作品が、長い景気低迷や未曾有の大災害に繰り返し見舞われ、閉塞感が漂い、救世主をイメージすることも難しい現代日本を生きる私たちに何を問いかけるのか。

今回の「ゴドー」は札幌文化芸術劇場 hitaruのオープニングシリーズとしてクリエイティブスタジオで公演します。新しい劇場の創造スタジオに、かつての寺山修司作品には欠かせない存在であり、2016年には野村萬斎演出による「マクベス」でも札幌の舞台に立った特權的な身体性を誇る二人の怪優、福士恵二と高田恵篤を東京から招き、新しい劇場を斬新なデザインで飾る舞台美術は、札幌出身で今や日本を代表する舞台美術家・島次郎、そして照明家の大野道乃を東京から招きます。

斎藤歩と納谷真大、札幌を代表するベテラン俳優が主演し、ブレヒト、チーホフ、イヨネスコなど、数々の世界的な名作の演出で「東京の演劇人は札幌へ演劇を観に行くべきだ」と言わせ、海外でも評価の高い斎藤歩の演出で、ノーベル文学賞作家ベケットの不朽の名作を創造都市札幌から、世界へと発信します。

story

舞台は田舎の一本道。木が一本立っている。ウラディミールとエストラゴン、二人の浮浪者がゴドーという人物を待ち続けている。もう何日、何年待っているのか、二人はゴドーに会ったこともなく、待ち合わせの場所がはたしてそこなのかも怪しい。二人が滑稽で実りのない会話を続けていると、そこにポツツォと従者ラッキーが現れる。首をロープでくくられたラッキーを市場に売りに行く途中だとポツツォは言う。ラッキーはポツツォの命ずるまま踊ったりするが、「考えろ!」と命令されて突然、哲学的な演説を始める。ポツツォとラッキーが去った後、使者の少年がやって来て、今日は来ないが明日は来るというゴドーの伝言を告げる。そして翌日、二人の浮浪者は同じ場所と思われる田舎の一本道、一本の木の下でゴドーを待っている。二人のもとに再びラッキーとポツツォが現れて…



斎
藤
歩



納
谷
真
大



福
士
恵
二



高
田
恵
篤

北大演劇研究会を経て、1987年に札幌ロマンチカシアター飴鯨(ほうぼう)舎設立。1996年、北海道演劇財団設立に伴いTPS契約アーティストに就任。2000年より(株)ノックアウト所属俳優として、東京での俳優・演出家の仕事を開始。2001年からTPSチーフディレクター。2016年4月より札幌に移住し、現在、北海道演劇財団専務理事・芸術監督。札幌を拠点にした演劇創造、東京を拠点にした映画、テレビ、舞台演出など活動は多岐にわたる。2000年、演出した「逃げてゆくもの」が文化庁芸術祭優秀賞を受賞。2002年には作・演出・出演した「冬のバイエル」が東京新聞の現代劇ベスト5に選ばれた。

早稲田大学卒業後、富良野塾を経て、演劇企画集団ガジラ、秦建日子プロデュース、FICTION等、様々な劇団に役者として参加。2001年処女戯曲作「EASY LIAR!」が「北の戯曲賞」優秀賞を受賞。2004年、演劇ユニット「イレブン☆ナイン」を結成。2007年上演の「あっちこっち佐藤さん」はライフコート札幌舞台芸術賞演劇大賞を受賞。舞台の他にもCM、ドラマ、映画、ラジオなどの脚本・出演も。子どもから社会人まで幅広い対象で行っているワークショップも高い評価を受けている。俳優としては、イレブンナイン、富良野GROUPに主演する他、札幌座やOOPARTSへの客演も。昨年放送された昼帯ドラマ「やすらぎの郷」にもレギュラー出演。

1978年に「演劇実験室●天井桟敷」に入団。「奴婢訓」「レミング」「百年の孤独」などの舞台作品のほか、寺山修司監督「上海異人娼館」「さらば箱舟」などの映画にも出演する。寺山修司没後、1983年、J・A・シーザーらと共に演劇実験室●万有引力を結成。現在、俳優のほか、演出、制作も担当する。海外の演出家との仕事も多く、ロンドンのサイモン・マクバニー、ドイツのヨッシ・ビラー、イタリアのテレーザ・ルドヴィコなどを作品を創る。サイモン・マクバニーとは「エレファント・バニッシュ」「春琴」を創り、ニューヨークのリンカーンセンターを始め、パリ、ロンドン、シンガポール、台北、ロサンゼルス、ミシガンなど世界各地で公演する。